

比較文化学部 比較文化学科

文章は、鹿島茂『レ・ミゼラブル』百六景の一節である。ヴィクトル・ユゴーの小説である『レ・ミゼラブル』(一八六二)には、貧困のために一本のパンを盗んだことから従刑場に一九年間服役したジャン・ヴァルジャンをはじめ、悲惨な運命をたどる多くの人々が登場する。その中で、ミリエル司教は、ジャン・ヴァルジャンが更正するきっかけをつくる重要な登場人物である。

2ページ以降の文章を読んで、

- ① 傍線部(1)「人々は司教が処刑場を避けて通ることに気づいた」とあるが、司教はなぜ処刑場を避けて通ったのか。考えられることを百字以内(句読点等を含む)でまとめなさい。
- ② 傍線部(2)「ユゴーは、新しい社会で人々を導くには、魂の救済者であると同時に社会の改革者でなければならないと考えていた」とあるが、ユゴーはなぜこのように考えたのか。また、現代にもこうした考え方が必要かどうか、あなたの考えを五百字以内(句読点を含む)で論じなさい。

*下書き用紙は清書とともに提出となります。

本部分については
著作権上の制約により
掲載することができません。